

Title	イスラーム美術と日本の美術工芸とのかかわりについての基礎的研究
Sub Title	Study on the relationship between Islamic art and Japanese art
Author	鎌田, 由美子(Kamada, Yumiko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>日本とイスラーム美術のかかわりはほとんど研究されていない。しかし、実際には江戸時代にはイスラーム美術品がもたらされ、それに触発された作品も作られていた。今回調査したものに、徳川美術館の所蔵する江戸時代の印籠がある。この印籠には、イスラーム風の花柄の模様が施され、金細工が多用されているため、一般的な江戸時代の印籠とは印象が異なる。徳川美術館は、尾張徳川家のコレクションを継承しているのだが、そのなかには尾張徳川家がオランダ東インド会社から入手したペルシアやインドの布がいくつもあり、この印籠に用いられたものと類似する花柄のものもある。それをふまえると、藩主が、自らのコレクションにあるペルシアやインドの布に触発され、そのデザインを用いた異国風の印籠を作らせた可能性がある。もしそうであれば、江戸時代に、イスラーム美術品に触発されて作られた工芸品の貴重な作例となる。そのほか、今回はコロナにより文献だけの調査になってしまったが、アルバレロも日本とイスラーム美術のかかわりを示すものとして興味深い。というのも、本来、アルバレロはイスラーム圏でつくられた陶製の円筒形の壺で、そのなかに薬品などを入れて輸送するために用いられたが、14世紀ごろからイタリアなどに運ばれるとヨーロッパで珍重され、その模倣品が作られた。そしてヨーロッパでは、薬品を入れる壺として定着し、薬局などにも置かれた。オランダのデルフトでもアルバレロは作られたが、これが江戸時代にオランダ東インド会社によって日本に運ばれると、茶人たちに水差しとして好まれ、日本でも模倣品が作られた。このように、イスラーム美術品、ならびにイスラームの工芸品とかかわりの深いヨーロッパの工芸品が江戸時代の日本で享受されていた。江戸時代の日本人がそれらをどのように捉えていたかについては、今後考察を深めていきたい。</p> <p>The relationship between Japan and Islamic art has not been well studied. However, in reality, textiles and artworks from the Islamic world were brought to Japan in the Edo period. At that time, inspired by such Islamic art objects, Japanese artists and craftsmen made their own artworks. One such example is an intro (medicine case) in the Tokugawa Art Museum that has vegetal motifs typical of Islamic textiles. This intro was made for the feudal lord of the Owari Tokugawa family. As this family owned seventeenth-to-eighteenth-century Persian and Indian textiles that were presented to them by the Dutch East India Company, this intro was made to incorporate the vegetal design seen on Islamic textiles to satisfy the lord's taste for exotic objects.</p> <p>The albarello, a cylindrical ceramic storage jar that originated in the Islamic world, is another type of art object that indicates a relation between Islamic art objects and Japan. When Syrian albarello were brought to Italy as containers for liquid or other substances, people in Europe were fascinated by these beautiful storage jars. Hence imitations of Islamic albarello were extensively made in Europe. When albarello made in Dutch Delft ware were brought to Edo-period Japan by the Dutch, they were used as water containers for the tea ceremony. Thus both Islamic art objects and European art objects inspired by Islamic artifacts were enjoyed by people in Edo-period Japan.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200137

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	経済学部	職名	准教授	補助額	200 (B) 千円
	氏名	鎌田 由美子	氏名 (英語)	Yumiko Kamada		
研究課題 (日本語)						
イスラーム美術と日本の美術工芸とのかかわりについての基礎的研究						
研究課題 (英訳)						
Study on the relationship between Islamic art and Japanese art						
1. 研究成果実績の概要						
<p>日本とイスラーム美術のかかわりはほとんど研究されていない。しかし、実際には江戸時代にはイスラーム美術品がもたらされ、それに触発された作品も作られていた。今回調査したものに、徳川美術館の所蔵する江戸時代の印籠がある。この印籠には、イスラーム風の花柄の模様が施され、金細工が多用されているため、一般的な江戸時代の印籠とは印象が異なる。徳川美術館は、尾張徳川家のコレクションを継承しているのだが、そのなかには尾張徳川家がオランダ東インド会社から入手したペルシアやインドの布がいくつもあり、この印籠に用いられたものと類似する花柄のものもある。それをふまえると、藩主が、自らのコレクションにあるペルシアやインドの布に触発され、そのデザインを用いた異国風の印籠を作らせた可能性がある。もしそうであれば、江戸時代に、イスラーム美術品に触発されて作られた工芸品の貴重な作例となる。そのほか、今回はコロナにより文献だけの調査になってしまったが、アルバレロも日本とイスラーム美術のかかわりを示すものとして興味深い。というのも、本来、アルバレロはイスラーム圏でつくられた陶製の円筒形の壺で、そのなかに薬品などを入れて輸送するために用いられたが、14世紀ごろからイタリアなどに運ばれるとヨーロッパで珍重され、その模倣品が作られた。そしてヨーロッパでは、薬品を入れる壺として定着し、薬局などにも置かれた。オランダのデルフトでもアルバレロは作られたが、これが江戸時代にオランダ東インド会社によって日本に運ばれると、茶人たちに水差しとして好まれ、日本でも模倣品が作られた。このように、イスラーム美術品、ならびにイスラームの工芸品とかかわりの深いヨーロッパの工芸品が江戸時代の日本で享受されていた。江戸時代の日本人がそれらをどのように捉えていたかについては、今後考察を深めていきたい。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>The relationship between Japan and Islamic art has not been well studied. However, in reality, textiles and artworks from the Islamic world were brought to Japan in the Edo period. At that time, inspired by such Islamic art objects, Japanese artists and craftsmen made their own artworks. One such example is an intro (medicine case) in the Tokugawa Art Museum that has vegetal motifs typical of Islamic textiles. This intro was made for the feudal lord of the Owari Tokugawa family. As this family owned seventeenth-to-eighteenth-century Persian and Indian textiles that were presented to them by the Dutch East India Company, this intro was made to incorporate the vegetal design seen on Islamic textiles to satisfy the lord's taste for exotic objects.</p> <p>The albarelo, a cylindrical ceramic storage jar that originated in the Islamic world, is another type of art object that indicates a relation between Islamic art objects and Japan. When Syrian albarelo were brought to Italy as containers for liquid or other substances, people in Europe were fascinated by these beautiful storage jars. Hence imitations of Islamic albarelo were extensively made in Europe. When albarelo made in Dutch Delft ware were brought to Edo-period Japan by the Dutch, they were used as water containers for the tea ceremony. Thus both Islamic art objects and European art objects inspired by Islamic artifacts were enjoyed by people in Edo-period Japan.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
鎌田由美子	祇園祭を飾るインド絨毯—江戸時代の日本とイスラーム染織品	徳川美術館	2020年9月26日			
鎌田由美子	Tribal Textiles and the Mingei Circle in Japan: Yanagi Muneyoshi's View on Carpet	Textile Society of America 17th Biennial Symposium	2020年10月17日			
鎌田由美子	日本にもたらされたイスラーム染織品—京都祇園祭の絨毯を中心に	東京ジャーミー	2020年10月24日			